





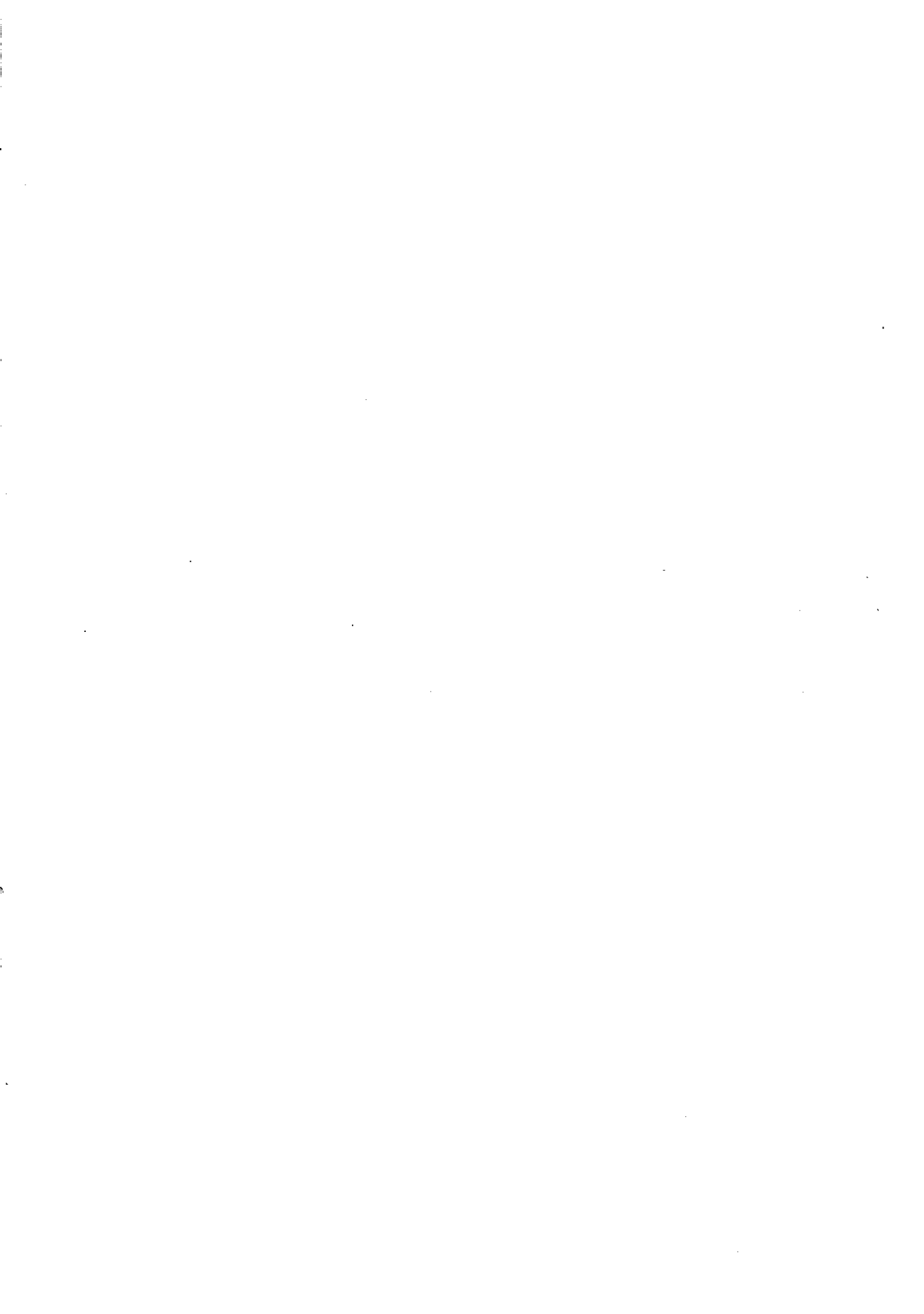
国語問題

はじめに、これを読みなさい。

- 1 この問題用紙は14ページある。ただし、白紙はページ数に含まない。
- 2 試験時間は60分である。
- 3 解答用紙に印刷されている受験番号が正しいかどうか、受験票と照合して確認すること。
- 4 監督者の指示にしたがい、解答用紙の氏名欄に氏名を記入すること。
- 5 解答は、すべて解答用紙の所定欄にマークするか、または記入すること。所定欄以外のところには何も記入しないこと。解答欄は裏面にもある。
- 6 問題が指示する数より多くマークしないこと。
- 7 解答は、必ず鉛筆またはシャープペンシル(いずれもHB・黒)で記入すること。
- 8 訂正する場合は、消しゴムできれいに消し、消しくずを残さないこと。
- 9 解答用紙は、絶対に汚したり折り曲げたりしないこと。
- 10 解答用紙はすべて回収する。持ち帰らず、必ず提出すること。
- 11 この問題冊子は、必ず持ち帰ること。
- 12 解答をマークするときには、記入例を参照すること。

良い例	悪い例
	  

(マーク記入例)





(一) 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

近代思想において道徳性は、しばしば法と結び付けられてきた。しかし、道徳性が問われる個々の行為や出来事は、きわめて個別的な性格を有しており、それを単純な原則によつて割り切つてしまうことはできないし、そうしたところで問題は解決しない。道徳性とは、単に法を当てはめ判決を示す裁判のような行為ではなく、個別的な人間関係の持続性のある発展と修復に関わつてゐる。そうであるならば、道徳性とは、医学や経営学や生態学、とりわけ、教育に近い分野なのである。

道徳性とは、相手のニーズに対して共感的にケアする態度をとり、必要であるならば、そのために社会制度の改革に着手する過程のなかに表現される。こうした道徳性とは、それ自身が教育的なものである。

道徳性の本質が教育的な態度にあるならば、道徳教育とは、子どもを I へと成長させていくことになるだろう。道徳教育とは、教育することを教育することである。

こうした観点に立ちながら、以下では、道徳教育とはどのように行えばよいのかを提案する。その中心的な主張は、主権者の道徳教育としての哲学の創設である。この哲学は、抽象的な哲学理論を学ぶものではなく、公民・社会科と家庭科のある部分を結びつけ、道徳性についての思考力と行動力を養うものとしての哲学である。

なぜ、道徳教育が哲学という科目でなされなければならないのだろうか。それは、道徳性の教育に必要な二つのこと、すなわち、批判的思考力と生活統合を養うことができるからである。

それ以前に、そもそも哲学とは何であるかについて説明しよう。

哲学とは、自分の生の基盤を問い、よりよき生を求める態度である。ここでの「生の基盤」とは、自分の行動や思考が基づいてゐるところの常識、認識的パラダイム<sup>(注1)</sup>、思考パターン、社会制度、文化的規範を指している。私たちの日常行動は、無自覚のままに一定の生の基盤の上に成り立っている。それは、ある仕方私たちの日常行動に秩序を与え、それを拘束しているものである。この生の基盤の存在に気づき、果たしてそれが適切なものであるのか、改善する必要のないものなのかどうかを問い直すこ

とが哲学の任務である。生の基盤を問いただす態度が、単なるカイギにとどまらず、<sup>a</sup>よりよき生のために、<sup>①</sup>行動や思考の新しい基盤を形成しようとする態度となるときに哲学と呼ばれる。

哲学とは、自分も依つて立つてはいるが、人びとに共有されてもいる生の基盤に関する問いを、社会へと投げ返す行為である。個人に発する問いを公共に向けて投げかける点で、哲学は本質的に政治的な行為である。それゆえ、哲学の方法論は、政治的行為としての討論にこそある。討論は他者の生の基盤も問い、他者を哲学へと誘う。討論は、多様な人びとの双方向的な対話によつて成立する。

さて、先に述べたように、哲学を学ぶ意義は、道德教育にとつて不可欠な二つのもの、批判的思考と生活統合を学ぶことができるからである。

批判的思考とは、すでによく知られているだろうが、与えられた知識や情報を鵜呑みにせずに、<sup>b</sup>そのシンギや正不正をあらためて検討し直す態度をいう。なぜ、批判的思考は現代社会で重視されるのだろうか。

現代の私たちの生活は、きわめて技術的である。「技術的」とは、いくつかの前提を無検討に受け入れて、それを基盤としながら、生活を効率よく精緻化していく態度をいう。たとえば、学習でいえば、受験勉強がそうであろう。会社で上司から与えられた業務をただこなしていくような仕事ぶりも技術的である。

技術的生活は、ある生の基盤を前提とした具体的実践であり、ズームインする態度である。しかし、技術的生活はしばしば、無反省な精緻化や反復にオチイリ、生活を閉塞させる。これに対して、哲学はズームアウトする態度である。それは、

## II である。

また、批判的思考は、技術的な生活を問いただす力を私たちに与えてくれる。もちろん、批判的思考は、哲学のみが養う能力ではないし、哲学でのみ必要とされる能力でもない。それは、あらゆる学問分野で求められるものであり、日常生活においても有益なスキルである。現在のさまざまな知識や社会規範、制度、法を一旦、信じ込むのをやめ、その妥当性を改めて検討する力もある。これは、現行の慣習や社会のあり方を道德的観点から改善するためにも、かならず必要とされる。そのため、道德教育

は、哲学的な批判に基づいてなされるべきである。

② 哲学を学ぶさらに重大な意義は、生活統合にある。

生活統合とは、ある事柄をより広い文脈のなかで捉え直し、意味づける作業である。いまの勉強は自分の将来にとってどういう意味があるのか。この仕事は、自分の人生にとってどういう意味を持つているのか。この政治的出来事は、歴史的にどういう位置づけになるのか。こうした問いは、人生の断片的な出来事を、より広く長い文脈のなかに位置づけ、価値づける作業である。右にあげた問いは典型的に哲学の問いであり、哲学とは生活を統合しようとする試みなのである。

現代社会は科学知による専門化が著しい。専門化は、個人の社会への依存性を高め、共有される価値や知識の核を弱め、社会の階層化を引き起こす負の側面を持つ。以前日本で、カルト宗教教団のテロリズムによって多くの被害者が出た。その教団に所属していた多くの若者が、大学で専門的・科学的知識を学びながら、他方で、自分の人生をどのように営んでいったらよいのか、社会の中でどのように生きていったらよいのかといった生活統合に関わる問題を抱えていたのである。

専門家を旨とする科学とは異なり、哲学は非専門性、あるいは、超専門性を本質とする。科学は、研究領域も方法論も定まっています役割分担があり、その専門家は良くも悪くもケ<sup>d</sup>ンイをもっている。これに対して、哲学は定まった研究対象を持たず、特定の方法論もない。

古代ギリシャで生まれた哲学は、当時の一般市民のための知であつた。哲学のひとつの重要な役割は、専門知識の批判的検討にある。哲学とは、一般市民が非専門家の立場から、既存の知識や常識に対して、「それは本当に、正しい知識なのか。それは、吟味された生活に役立つ知識なのか」と問いかける作業に他ならない。哲学には特定の専門領域がなくて、どんな問題にでも介入するのは、非専門家である一般市民のための知だからである。

こうした一般の市民としての視点や問いかけは、すべての人が持ちうる視点であり、問いかけである。哲学の問いかけは、専門家に任せてしまいがちな公共空間の構築を、一般市民の手に取り戻すことにつながる。哲学は、専門領域を横断する問いを立てることで、社会の分断を修復する。専門化した生活の危機を回避し、社会をよりよき生への志向を通じて再統合化するのが哲

学の役割である。

もちろん、この哲学の持つ生活統合は、専門知の検討というやや高度なレベルで求められる以前に、個々人の人生におけるさまざまな問いについて考え、議論しようとするレベルで求められるものである。

人生に関する哲学的な問いには、たとえば、次のようなものがある。

人生の意味とは何か、死をどう理解すればよいか、幸福とは何か、善悪とは何か、ルールは何のためにあるのか、思いやりとはどういうものか、自由とはどういうものか、神は存在するか、宗教はなぜ存在するのか、真の愛とは何か、友情とは何か、理解する・知るとはどういうことか、正しい知識とは何か、人権はなぜ尊重されなければならないのか、平等はどのようなようにすれば達成されるのか、社会の役割とは何か、成人の義務とは何か。

これらの問題は、Ⅲ 生活のあり方を問い直し、専門化した社会のあり方を問い直す。そして同時に、自分にとっての価値の発見や形成、自分の人生の意義の力クトクを促すものである。

さまざまな生活の局面を統合的に理解することは、道德教育にとって不可欠である。というのも、生活を統合的に捉えることによって、はじめて自分や他者のニーズを語ることができるのであり、また、それを人びとと論じることが可能になるからである。

他者に向かって自分のニーズを語り、他者のニーズを理解するには、それらの個人的なニーズを広い文脈に位置づける必要がある。③ 自分のニーズを、自分の歴史、自分を取り囲んでいる状況、それに関連する社会制度や政治的出来事のなかで捉え直し、そのなかで意味づけて語ることがどうしても必要である。そうすることによって、はじめて私たちは、自分のニーズが何であつたのかを理解できる。

これまで私たちは、道德性がどうあるべきかについて述べてきた。だが、その道德性は実際に、それを個々人が義務として感じて実行するのだから、④ 存在しないも同然である。道德教育において最も重大な関心を寄せるべきことは、この道德性へのモチベーションである。強制や教え込みによって、道德的義務感を生じさせることはできない。義務感はその定義からして自

発的に生まれるものだからである。

では、どのようにすれば、道徳的であることに動機づけられ、道徳的であることを自分の義務とすることができのだろうか。

そのためには、道徳性の対象となるものへ、自発的にコミット(注2)させる必要がある。何かに対する義務感は、その対象の成立や発展にコミットすることから生まれる。まったく何の接触もない人物に対して、自分が何らかの義務をもっていると本気で思うことは難しい。たとえば、貧しい国の人びとに対して、貧困克服のための援助をする義務があると感じることもあるかもしれない。だが、それ以前に、そうした義務感が生じるには、自分が世界政治や世界経済のプレーヤーであるというコミット感を持っていなければならない。

したがって、子どもに人間に対する道徳的態度を身につけてほしければ、他者の成長を促すような教育的役割を、子ども自身にひきうけてもらう必要がある。道徳教育は、教育することを教育することにある。子どもに教育者の役割を演じてもらうにあたって、第一に必要とされることは、

#### IV

である。

子どもは、ある人びとに対して教育的な態度をとり、その人たちの自由(自律性)と平等に配慮する。その過程において、子どもたちは、その人たちの社会的な不利や不平等を是正するために、必要ならば、社会を構築・改良する態度を取ることを学ばなければならない。そこには、民主主義社会を維持するだけではなく発展させることも含まれる。社会の構築や改良は政治的行為であるが、私たちが政治的当事者として振る舞うということは、ある特定の人(たち)が求めている利益を正当なものであると認めて、他の人びとにそれを訴えることである。

たとえば、ある地方の人びとが生活道路をどうしても必要としているときに、その要求が正当であり、他の人びとはその要求に応える義務があると訴えることは政治的な行為である。

したがって、道徳教育においては、子どもは二重のコミットメントを学ばなければならない。それは、第一に、民主主義社会に主権者としてコミットし、<sup>⑤</sup>民主主義社会を維持・発展させるプレーヤーとなることである(主権者としてのコミットメント)。



第二に、人びとの疎外されたニーズの観点をとり、その人たちの成長と発展にコミットすることである(ケア的コミットメント)。

両者が成立して、はじめて道徳教育となりうる。前者の態度だけでは、民主主義を道徳的に発展させる契機に欠けてしまう。後者だけでは、個別の人をケアするだけで、社会制度を改善する契機に欠けてしまう。それでは、集団的・組織的な不正や不平等、排除を退けることができない。

(河野哲也『道徳を問いなおす』より)

\*文中に一部省略した箇所がある。

注(1)パラダイム……ある時代に支配的な思考の枠組み。

(2)コミット……かかわりを持つこと。

問1 傍線部 a、e のカタカナの部分に漢字で書いた場合、二重線部の字と部首が同じ漢字が波線部に含まれるものを1〜9

の中から選び、その番号をマークせよ。

a カイギ

b シンギ

c オチイリ

d ケンイ

e カクトク

1 提案をシヨウダクする。

2 その店は駅にリンセツしている。

3 ムシヨウで奉仕活動を行う。

4 問題点をテツテイ的に洗い出す。

5 シンチヨウな運転を心がける。

6 長年の努力がジヨウジュした。

7 質問にテキギ答える。

8 支払いをユウヨする。

9 海外の会社をサンカにおさめる。

問2 空欄Ⅰを補うのにもつとも適切な語句を次の中から選び、その番号をマークせよ。

- 1 友情に厚い者
- 2 信頼できる者
- 3 正しく学ぶ者
- 4 思索する者
- 5 行動する者
- 6 教育する者
- 7 変革を指導する者

問3 傍線部①「よりよき生のために、行動や思考の新しい基盤を形成する態度」とはどういうことか。その説明としてもつとも

適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

- 1 生きる上での判断の基盤となるものもつ規範性を、公共の問題として常に問いかけ続けること
- 2 日常の価値判断の基盤となる外部の情報に疑い、討論によつて不正を問いただし続けること
- 3 私たちの生き方を拘束している社会制度を改善し、必要とされる自由の実現をめざし続けること
- 4 自分が人々と共有している制度や規範がもつ道徳性の根拠となる知識を、常に疑い続けること
- 5 多様な人々に対話をもちかけ、人々にその日常行動を規定している哲学の存在を自覚させ続けること

問4 空欄Ⅱを補うのにもつとも適切な語句を次の中から選び、その番号をマークせよ。

- 1 自らの生活の精緻化の方向性を反省すること
- 2 現代人の技術的生活を道徳的観点から否定すること
- 3 現代社会に横行する不正や不平等を問いただすこと
- 4 現在の自分の生活を広い文脈のなかで問い返すこと
- 5 日常の具体的実践の反復を留保し生活の見通しを開くこと

問5 傍線部②に「哲学を学ぶさらに重大な意義は、生活統合にある」とあるが、それはなぜか。その説明としてもっとも適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

1. 哲学はさまざまな専門知のなかでもっとも広い研究領域をもつために、政治や歴史など他分野にかかわる広い文脈から知識を統合することが可能であり、断片化してしまった現代人の生活を再統合し、社会の著しい階層化によって分断してしまった人々の関係を修復して、一般市民の人生をより高く価値づけることができるから。

2. 哲学は専門性を超越し、特定の方法論を否定しているために、政治学や歴史学などの専門領域を横断的に、より広く長い文脈で再検討し批判することができる点に価値があり、分断しつつある現代社会の危機を回避し、一般市民が正しい知識のもとに再統合化するのに適しており、人々が社会の中に自分の人生の意義を発見しやすくすることを可能にするから。

3. 哲学は専門領域を横断する問いを立てる一般市民のための知であり、知識や常識の正しさを問い直すことで断片的な出来事を広い文脈のなかで意味づけ、専門的な知の領域ごとに分断してしまった社会を修復し、個人によりよき生への志向を通じて生活の危機を回避して、公共空間を再統合することができるから。

4. 古代ギリシャの時代より哲学は専門家ではなく一般市民の学問であったために、特定の専門領域にこだわらずに人生で直面する断片的な問題を吟味し、正しい知識を見いだして生活に役立てることを役割としてきたが、さまざまな科学知によって専門化してしまった現代社会の人々が、どう生きるのが正しいのかを理解するには哲学の復権が必要だから。

5. 哲学は専門知識の批判的検討を重要な役割とするために、分断された科学知によって構築された公共空間を横断的に再検討し、人生をどう生きるべきかを見失ってしまい危機的状況にある人々を救う力をもっており、また、それを学ぶことによって社会を専門家から一般市民に取り戻し、一般市民にとって価値のあるものとして再構築できるから。

問6 空欄Ⅲを補うのもつとも適切な語を次の中から選び、その番号をマークせよ。

- 1 専門的
- 2 統合的
- 3 政治的
- 4 断片的
- 5 技術的
- 6 道徳的
- 7 批判的

問7 傍線部③に「そのなかで意味つけて語ることがどうしても必要」とあるが、それはなぜか。次の文の「イ」に本文中にあ

る五字の語を抜き出し、また「ロ」には「基盤」「生活統合」の二語を必ず用いて二〇字以内の語句を補うことで答えよ。

(句読点も一字と数える)

「イ」にもとづき、「ロ」の作業によって人生の意義を見いだせなければ、自分のニーズを他者に向かって語ることができないから。

問8 傍線部④に「強制や教え込みによって、道徳的義務感を生じさせることはできない」とあるが、それはどういうことか。その

説明としてもつとも適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

- 1 義務感を強制的に生じさせるような態度を、道徳教育者はとるべきではないということ。
- 2 どのように義務感を自覚するかは個人のニーズによるというのが道徳教育の本質であるということ。
- 3 ひとりひとりが他者のニーズに対する共感を持たなければ、道徳性の実現はありえないということ。
- 4 道徳性へのモチベーションの強さは、その人が他者にコミットする際の自発性の度合いに依存するということ。
- 5 個々人の行動以前に道徳性は存在しないのだから、そもそも事前に道徳的義務感を教え込むことは不可能ということ。

問9 空欄Ⅳを補うのにもっとも適切な語句を次の中から選び、その番号をマークせよ。

- 1 民主主義社会における自由と平等の意味を理解すること
- 2 教育者のもつべき道徳的態度を身につけること
- 3 他者のニーズを共感的に理解できること
- 4 自己の行動の公正さに対して責任感をもつこと
- 5 公共性の意味を理解し政治的にはたらきかけること

問10 傍線部⑤にいう「民主主義社会を維持・発展させるプレーヤー」とはどういう者か。その説明としてもっとも適切なものを

次の中から選び、その番号をマークせよ。

- 1 政治家ではなくとも政治的当事者であることを自覚して、特定の人たちの利益のために尽くす者
- 2 すべての人々に対して民主的な態度をとり、自分が教育する相手の自由と平等を尊重する者
- 3 より良い民主主義社会を実現するために、他者の成長にコミットする教育的役割りを自ら引き受ける者
- 4 他人にコミットすることを通して、社会のあり方を問うたり、改良する態度を身につけた者
- 5 世界のあらゆる問題に自発的にコミットすることで、普遍的な社会正義を実現することを自らの義務と感じている者

問11 本文に次の文章を補いたい。もっとも適切な箇所を、その直前の「○」字を抜き出して答えよ。(句読点も一字と数える)

そのときに、私たちは道徳的行為者として振る舞っているのである。政治的なコミットは、公正性や平等性に関わる道徳的意味を帯びている。

(二) 次の古文はⅠが『枕草子』、Ⅱが『十訓抄』の一節である。それを読んで、後の問いに答えよ。

Ⅰ 懸想人にて来たるは、言ふべきにもあらず、ただうち語らふも、またさしもあらねど、おのづから来などもする人の、簾の内に、人々あまたありて物など言ふにゐ入りて、とみも帰りげもなきを、供なるをのこ、童など、とかくさしのぞき、けしき見るに、「斧の柄も朽ちぬべきなめり」と、いとむつかしかめれば、長やかにうちあくびて、みそかにと思ひて言ふらめど、「あなわびし。煩惱苦悩かな。夜は夜中になりぬらむかし」と言ひたる、いみじう心づきなし。かの言ふ者は、ともかくもおぼえず、このぬたる人こそ、をかしと見え聞えつる事も失するやうにおぼゆれ。

また、さいと色に出でては言はず、「あな」と高やかにうち言ひ、うめきたるも、下行く水のと、いとほし。立藪、透垣などのもにて、「雨降りぬべし」など聞えごつも、いとにくし。

いとよき人の、御供人などはさもなし。君達などのほどはよろし。それより下れる際はみなさやうにぞある。あまたあらむ中にも、心ばへ見てぞ率てありかまほしき。

Ⅱ すべて、しかるべきところのみにかぎらず、ただうちある人のもとに仕へ従はむたぐひまでも、ものごとに執し、よろづにつけて、情けあるやうに振舞ふべし。晴にては、あやまちをせじとつつしみ、座席の立居に失錯なかるべし。身には火のはしりかかり、人のものをこぼしかけたりとも、人前にては、騒げる気色のなく、静かなるべし。声を高く笑はず、ものを荒くいはず、「あはれ、穩便なるものかな」と見ゆべきなり。

清少納言の枕草子といふものにいへるは、人のもとなるものの、主のさるべき女房などあひて、物語りするに、「夜の更けたる。雨の降りげな」など、聞き知れごとをつぶやく、その主、心劣りす、とあるこそ、げにことわりなれ。女房にかぎらず、主の対面の座席にて、従者のこざかしく、さしすぎたるは、いと見苦しきことなり。

さればとて、とみ<sup>a</sup>のことなどの出で来たらむに、告げ知らせざらむ、またいふかひなし。ことによりて、よく機嫌<sup>b</sup>をはからふべきなり。

問1 傍線①は、どのような気持ちを言おうとしているのか。次の1〜6の中からもっとも適切なものを選び、その番号をマークせよ。

- 1 口は禍の門
- 2 言はで思ふぞ言ふにまされる
- 3 言ふは易く行ふは難し
- 4 言ふに落ちずに語るに落つる
- 5 顧みて他を言ふ
- 6 もの言へば唇寒し秋の風

問2 傍線②の主語としてもっともふさわしい語をⅡから抜き出せ。

問3 傍線③はどのようなことを述べているか。次の中からもっとも適切なものを選び、その番号をマークせよ。

- 1 分別のある供人をもっている。
- 2 不作法な供人を連れている。
- 3 忠誠心のある供人に支えられている。
- 4 警護をする供人が集まっている。

問 4 傍線④は、対照的な人物を対比させ、誰に対しても情け深く行動するように戒めている部分である。「しかるべき」人と「うちある人」とはどのような人物の対比になっているか。次の組み合わせの中からもつとも適切なものを選び、その番号をマークせよ。

- 1 地下人に対して殿上人
- 2 風雅な人に対して世俗の人
- 3 田舎の人に対して宮中の人
- 4 高貴な人に対して普通の人
- 5 節度ある人に対して放縱な人

問 5 傍線⑤の口語訳としてもつとも適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

- 1 「しみじみとしている、穏やかで感動的なことよ」と見なければならぬ。
- 2 「かわいそうだ、内緒にして隠しておこう」と見てあげなければならぬ。
- 3 「なんとまあ、静かで落ち着いた人だこと」と見られるようにしなければならぬ。
- 4 「ものがなし、なんとも言えずかわいそうだ」と見られるようではなければならぬ。

問 6 傍線⑥に該当する箇所をIから三〇字以上三五字以内で抜き出し、その最初と最後の三字を書け。(句読点は入れないこと)

問 7 傍線⑦で「見苦し」とあるが、Iではそうならないために主人が行うべき方策を提言している。その提言でもつとも大切なことは何か。Iから五字で抜き出せ。



問8 傍線 a b の語の意味を表す現代語をそれぞれ漢字二字の熟語で書け。

問9 『十訓抄』と同じジャンル(文学形態)で、同時代の作品を次の中から一つ選び、その番号をマークせよ。

1 無名草子

2 日本霊異記

3 今昔物語集

4 古今著聞集

5 明月記

6 往生要集

7 愚管抄













